

2015 KPOS-TPOS-JPOA Exchange Fellowship 訪問記 in Taipei

九州大学医学研究院 整形外科

富 永 冬 樹

KPOS-TPOS-JPOA Exchange Fellowship として訪問した台湾での6日間について報告する。

前半4日間は台北を中心に3つの大病院, Taipei Tzu Chi Hospital, Chang Gung Memorial Hospital, National Taipei University Hospital(NTUH)を訪問し, 後半2日間は, TOA(Taiwan Orthopaedic Association)に参加し, 発表を行った。

Tzu Chi Hospital は仏の教えを基本とする病院で, 手術室や外来ではなく庭園やボランティアの働き場など, Tzu Chi の教えに関する場所を案内してもらった。Chang Gung Memorial Hospital は手術が年間小児整形だけでも1000件以上ある大病院で, 一日中手術の助手につかせてもらった。台湾では2か月に1症例は見逃されたDDHの手術があると嘆いていたのが印象的であった。NTUHは重鎮が在籍する大学病院で, 午前中は手術見学, 午後はProf. Kuoの外来見学であった。TOAでは, 「Bilateral hip involvement in DDH — a CT study —」の演題で発表し, Prof. Kuoから, 自分もpure DDHとlater DDHはまったく別物と考えているとのコメントをいただいた。

台湾では医師の絶対数が少なく特に同じ分野のドクターは仲が良く, 皆で台湾の医療を向上させていこうとしていること, 国際化を意識して英語での発表, 論文がほとんどであることなど, この6日間で日本では感じられない刺激を本当に多く受けることができた。この貴重な経験を活かし, 英語での発表や英語論文の作成を心掛けていく所存である。

KPOS-TPOS-JPOA Exchange Fellowship として, 2015年10月27日から11月1日までの6日間, 台湾への小旅行の機会をいただきましたのでここに報告いたします。

出発に先立ち, 日本小児整形外科学会国際副委員長であり, 私のBossである中島康晴先生より Taipei Tzu Chi Hospital の Dr. Men-Jeng Huang を紹介していただき, 同氏にスケジュールを調整していただきました。毎年とは思いますがTight scheduleを用意していただきました。6日間のうち前半4日間は台北を中心に3つの大病院, Taipei Tzu Chi Hospital, Chang Gung Memorial Hospital, National Taiwan University Hospital(NTUH)を訪問させていただきました。後半2日間は, TOA(Taiwan Orthopaedic Association)に参加および発表させていただきました。

10月27日, 福岡空港を発ち, およそ2時間で桃園国際空港に到着。Taipei Tzu Chi Hospital の Dr. Hung と Dr. Wang が『富永先生』と書かれた紙を持って出迎えてくれました。Dr. Hung は, 親切オーラが出ている, 小児整形と膝を専門にしているドクターで, Dr. Wang は大学病院から臨床経験のためにTzu Chi Hospital に来ている同年代のドクターでした。昼食の後に Dr. Hung の車でTzu Chi Hospital へ向かいました(写真1)。Dr. Huang と病棟で対面。恰幅がよくて, ザ・部長でした。Dr. Huang にまず病院を案内してもらいながら病院につ



写真1. Taipei Tzu Chi Hospital

いての説明を受けました。仏の教えを基礎としている病院であることもあり、すべての階で左右の病棟の間に仏陀を祀る空間があったり、ロビーと地下一階には仏陀の大きな壁画が飾っていたり、ロビーでは手を合わせる人が多く見受けられたことが印象的でした(写真2,3)。

初日の夜は、TPOS monthly meetingに参加しました。昼間、Dr. Hungには「毎月やっていて気軽な会だ」とか、Dr. Wangには「ネクタイ不要」と聞いていたので、気楽な気持ちで臨みましたが、NTUHのassistant professor Dr. WangやChang Gung Memorial Hospitalの小児整形の部長Dr. Chang、台湾小児整形外科の首領Pr. Kuoなど、そうそうたるメンバーが集結しており、プレゼンどころではありませんでした。18時半に始まった会は、21時半まで会食しながら絶え間なく症例提示が続けられDiscussionが非常に盛んでした。私にもこのMeetingで特に難治例や興味深い症例を提示してほしいとのメールを事前にいただいていたのですが、自分の経験上、以前に西日本整形・災害外科学会で発表した小児の前腕骨骨折の再骨折例について発表しました(写真4)。NTUH Pr. Wangからは、髓内釘とプレートをハイブリッドさせたり、両方髓内釘でも抜釘の時期をずらすような工夫はしている(尺骨の方はワイヤーを皮膚外に出している)とのコメントをいただきました。これまでの人生の中で三本の指に入る長い長い一日でした。

2日目、10月28日は、Tzu Chi Hospitalへ。毎朝7時半からMeetingをしているらしく、そのMeetingで、DDHについて発表をしてほしいとのことで、後日のTAOの内容を発表しました。質問をたくさんいただき、Dr. Hungからは、DDH群の具体的な治療方法や、16例の小児期の治療方法は何か、やFemoral headの左右差はあったか、などの確な質問をいただきました。Dr. Huangからは、興味深い内容だとのコメントをいただき、質問としては、この研究を踏まえて今後どうするかと問われました。

それから、Yenさんというボランティアの方が、日本語で院内を案内してくれました。手術室や外来ではなく、庭園や売店、ボランティアの人たちの働き場など、Tzu Chiの教えに関係あるような場所ばかりでした。午後からはDr. Wangとの2人旅に出掛けました。私が、Artが好きと初日に言ったこともあり、National Palace Museumに連れてってもらいました(写真5)。美術館隣接のレストランで食事をした後、美術館へ、清時代のカラフルな花柄紋様と、郎世寧というイタリア人ながら皇帝に仕えた画家の鳥と花の絵画、有名な清の肉と白菜のオブジェである肉形石と翠玉白菜が気に入りました。夕食はTzu Chi Hospital近く鉄板焼き屋でTzu Chi Hospitalのスタッフ全員で夕食。スタッフ7人とも和気あいあいとしていて雰囲気が素晴らしかったです。

3日目、10月29日は朝からChang Gung Memorial Hospitalへ。ここは整形外科医が50人くらい、手術は年間5000件以上、小児整形だけでも1000件以上しており、手術室が60部屋以上あるマンモス病院



写真2. Taipei Tzu Chi Hospital 病棟間の仏間、右から Dr. Wang, 著者, Dr. Huang, Yen さん



写真3. Taipei Tzu Chi Hospital 正面玄関の壁画, Dr. Huang と



写真4. TPOS monthly meeting での発表

です。この病院でも7時から8時まで Meeting があり、どの病院もすごく熱心です。DDH 例に対する Transphysial screw の症例が有名なようでした。その日の手術は7例あり、しかも1列で、さらにはすべて Dr. Chang の執刀です。多趾症、OR+Pemberton osteotomy、上腕骨顆上骨折、Transphysial screw など、すべてに入らせてもらいました(写真6)。朝8時半から始まり最後の手術が終わったのは19時でした。久々の手術で、しかもコミュニケーションはすべて英語、器具の名前もわからないので直接介助の看護師にも道具を求められずに疲れましたが、やはり手術はテンションが上がりました。術中に日本での先天性股関節脱臼の見逃し例はどのくらいあるかと聞かれ、台湾では Chang Gung memorial hospital だけで2か月に1回くらい手術していると嘆いていました。長い一日を終え、夕食は Dr. Chang, Dr. Huang, Dr. Wang の4人で、オリジナル台湾料理をいただきました。

4日目、フェローシップも折り返しを迎えた10月30日は NTUH の見学に行きました。Tzu Chi の Dr. Wang と共に NTUH へ。ミーティングはなく、8時に Pr. Wang が来てすぐに手術が始まりました(写真7)。やはり大学病院ということもあり、学生も含めて4~6人で手術に入りました。すべての手術に Pr. Kuo は顔を出し、適宜アドバイスをしていました。特に CP 症例は、要所を Pr. Kuo に随時確認しながら手術を進めていました。昼の弁当をカフェテリアで Pr. Kuo を交えていただいた後に、午後は Pr. Kuo の外来見学のため Children hospital へ。Poland synd. などのまれな疾患や CP, DDH など、12例くらいを丁寧に診察し、時々私や学生に知識を教えてくださいました(写真8)。夜は TOA の Welcome meeting へ。行ってみると、Dr. Huang, Pr. Kuo, assistant professor Dr. Wang がいてやはりえらい人たちののだなあと思いつつ、Chairman である Dr. Cheng など有名な方々を紹介してもらいました。また、日本からのゲストである福島県立医科大学教授の紺野先生や、苑田会人工関節センターの杉本先生がおられて、日本では絶対気軽には話せない先生方と密に話すことができました。

5日目、10月31日はついに来た発表の日です。8時すぎに TOA の会場へ。プレゼンは特に問題なく終わることができました(写真9, 10)。最後の Discussion では、まず Pr. Kuo から、素晴らしい内容で、pure DDH と later DDH は全く別物と考えるべきで、私もそう思っているとのコメントをいただきました。それから平成27年度の日本股関節研究会で招待公演された Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital の Prof. Dr. Jih-Yang Ko からも素晴らしい内容だが、既往歴のアンケートはどうしているのかと質



写真5. National Palace Museum



写真6. Chang Gung Memorial Hospital 手術室、左が Dr. Chang



写真7. NTUH 手術室、右が assistant professor Dr. Wang

問を受けました。あとはやはり小児期の治療内容はどうであったか、なぜならそれが対側にも影響するかもしれないからと、Pr. Huang に質問をいただきました。それから台湾の大病院でのエコーでのスクリーニングの実状について討論されて、7演題で20分の討論のうち、15分くらい時間を取ってもらいました。それからはさまざまな骨切りの発表を聞き、やはり小児期のDDHに対してはPembertonがほとんどという意見でした。ほかにDEGAやTriple osteotomy, Salter, Shelfなどたくさんの骨切りの具体的な方法を知ることができました。午後は、学会場周囲を少し回り、TAIPEI 101という101階建てのタワーの観光に行きました。夜は学会のBANQUETにその日も参加し、途中から病院単位で列を成して挨拶回りをするは、病院ごとにステージで歌うは、とドンチャン騒ぎでした。

6日目、11月1日。最終日も朝8時から学会へ。Discussionのときに座長のDr.田から、How about in Japan?という質問が度々あり、今回は日本代表なのだと思改めて思知らされました。やはり通訳か自動翻訳機が必要です。スライドはすべて英語で、Dr. Huangいわく、普段からすべてそうで、国際化を意識しているし、若手には度々英語で発表させているとのことでした。10時に小児整形のセッションが終わり、それからDr. Huangの車で陽明山へ。最終日もあいにくの天気でしたがロケーションは最高で、料理もこの旅で最も美味でした。

この6日間で感じたことは、文化としてはメカニック分野が日常生活も医療も進んでいることです。クルマのフロントガラスかバックミラーにモニターがついているし、駐車場は駐車可能の正確な数がモニターに映されているし、トイレもやたらモニターがあるし。医療もナビゲーション手術にはかなり長けているとのことでした。医療に関しては、手術が早いこと、医師の絶対的な数が少ないため特に同じ分野のドクターは仲が良く、みんなで台湾の医療を向上させていこうとしていること、国際化を意識して英語での発表、論文がほとんどであることなど、日本にいたら感じられないような刺激を本当に多く受けることができました。すべてを英語の発表にはできませんが、今後、まずは極力英語で発表し、英語論文を書くよう心掛けていく所存です。

最後にこのような機会を与えていただき、齋藤知行理事長、亀ヶ谷真琴前会長、川端秀彦国際委員長をはじめとする日本小児整形外科学会の先生方に本当に感謝しています。この経験を日本の整形外科医療に活かしたいと思っています。



写真8. NTUH小児整形のスタッフと、Pr. Kuoを囲んで



写真9. TAOでの発表



写真10. TAO小児セッションが終わった後の集合写真